

第 36 回東北動物実験研究会の御礼

師走の候、皆様に於かれましては、お忙しい日常に追われていることと察します。

去る 11 月 28 日（金）に東北大学加齢医学研究所スマートエイジング棟国際会議室で開催された第 36 回東北動物実験研究会にご協力頂き有難うございました。前回東北大学星陵キャンパスで開催した第 28 回（参加者 77 名）と比べると若干の参加者数の減少はございましたが、64 名（会員 38 名、非会員 26 名）もご参加いただき、盛会のうちに会を終了することができました。

今回の研究会は、『からだを知るためのアプローチ』と副題をつけさせていただき、動物実験代替法（東大・西川先生）、コフォート研究との結合（東北大・米代先生）、宇宙空間（東北大・鈴木先生）という今まで馴染みのない切り口でのご講演を企画させていただきました。皆様の今後の施設運営や研究活動における新たなアイデアの想起につながればと考えております。

一般演題では若手・シニアの会員から多岐の分野にわたる 9 つの演題が発表されました。今後も若手人材の育成に加え、シニア会員間の連携強化の場として企画の継続を願います。また初回の東北動物実験研究会賞を受賞された関信輔会員、渡邊正輝会員に於かれましては、お祝い申し上げますと共に、益々のご活躍を祈念申し上げます。

また、今回の研究会では、賛助会員の皆様や協賛企業の皆様に企業ブースを準備させていただきました。高いレベルの洗練された動物実験を行う上で、企業の皆様のご協力は不可欠です。官民の有意義な情報交換の場になったのであれば幸いです。

役員の先生方も複数参加できないなど、開催日の設定にも課題の残る会ではございました。また、新しいことを試みた結果、スケジュールがタイトになり、一般演題も十分な発表時間が確保できませんでした。しかし、様々な挑戦を続けていくことで、東北動物実験研究会が日本の動物実験を牽引する研究会に成長・発展するものと確信しております。

最後になりましたが、広い東北地方各地や遠くは大阪から仙台に足をお運び頂き、会を盛り上げて頂いた皆様に重ねてお礼申し上げます。また大会の運営にご尽力いただいた東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設及び加齢医学研究所の皆様には厚くお礼申し上げます。

実行委員を代表して。

令和 7 年 1 2 月 1 日 東北動物実験研究会
会長・第 3 6 回大会長 北村 浩